

かわらばん

妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

スケッチ画と町屋が彩る街並散歩

妻入り街並ギャラリー開催

三回目を迎えた「妻入り街並ギヤラリー」を昨年の十月七日から九日にかけて開催しました。

昨年は、同じ作者のスケッチ画とその後に描いた日本画を同じ会場に並べて展示するという企画の中、芸大院生OB三十九人のスケッチ画六十点、日本画四十一点を十一軒の町屋と海岸公民館に展示しました。最終日の九日には素晴らしい天気の中で、黄色い「街並ギヤラリーガイドマップ」を手に持ち、絵を見ながら街並を歩く姿が多く見られ、その光景がとても印象的でした。

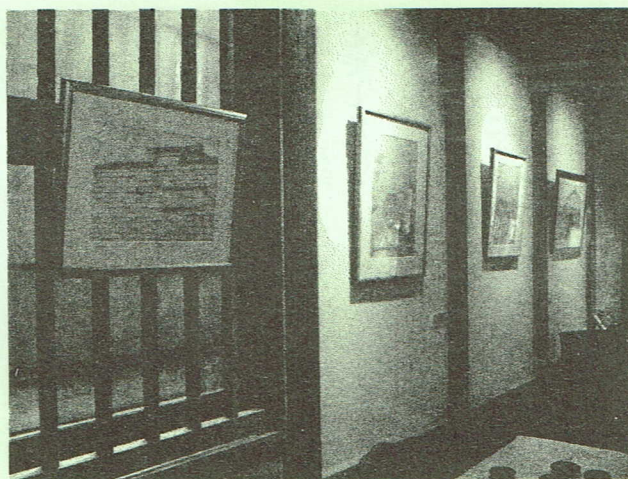
町屋に置いた芳名録にあった感想をご紹介します。

「素晴らしい絵に出逢えとても幸せな気持ち」、「絵もすてき！家もすてき！」、「作品がすばらしく、家はそれ以上に感動しました」、

「ほのぼのとした街の雰囲気感動！」、「出雲崎が絵に濃縮されています」、「毎年お願いします一週間くらい」、「来年も楽しみにしています」など嬉しい言葉ばかりでした。

今回、会場となる町屋を快くお貸しいただいた皆様、本当にあり

がとうございました。また会場で立会をしていただいたお二人から感想をいただきました。



街並ギヤラリーに参加して

井鼻 渡辺 モト

今年の街並ギヤラリーも、芸大院生とそのOBの限らない熱意と展示会場の家の方々の良心的な厚意協力の上で実施されました。

前日の準備は、芸大院生OBを中心に展示が夜遅くまで行われまし

た。院生OBの芸術的こだわりの情熱の深さに幾度となく心打たれるものがありました。今年は、院生が出雲崎へ来られるようになって二十年になります。その節目事業として、同一人の学生時と現在描かれた作品とを並列しての展示が企画されました。現在、日本美術院展覧会（院展）に入っているというOBが多く、その作品には目を見張るものがあります。ですから今年は特に例年に見えぬ素晴らしいギヤラリーとなりました。

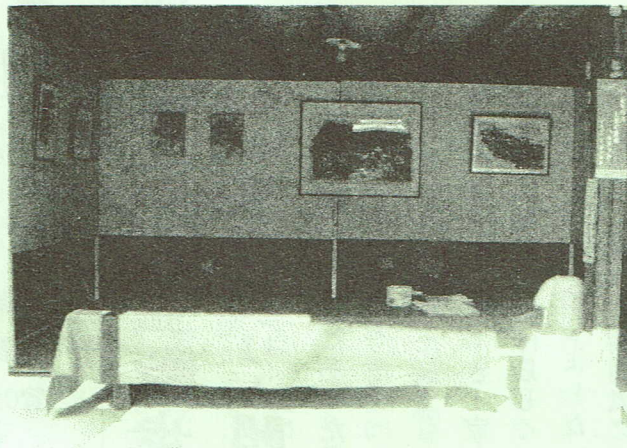
十月七日午前中、石井町の高島宅（石地屋さん）の会場係をしました。悪天候の中、街並ウォークに参加された人の中には町外者も多く、雨具姿で真剣に見て行かれた姿は、何とも印象的でした。

八日午後、羽黒町の相沢宅（旧相沢綿屋さん）では、天領まつりともあって県内外客が多く見られました。新聞やインターネットで知って来ましたと青森からのご

夫婦や名古屋からの若者。それに同級会でしたと東京、大阪方面のグループなど多彩で、いろんな人のお話ができました。たまたま善乗寺さんから借用の、携帯ラジオから流れるFMは雰囲気抜群で、石地屋さんもそうですが町屋を代表とする素晴らしい室内と絵と、ミュージックがプラスされて快い気分になり酔いしれて皆さん帰られました。会場によつては、赤い毛せんの長椅子に家の善意で何気なく用意された湯茶の接待は、歩き疲れた皆さんの格好の休み処となりました。さぞ喜ばれたことでしょう。

終わって感じたことは、会場にごく簡単な感想用アンケート用紙を用意したなら、今後の運営の参考になるのではないかと思います。また芸大院長が毎年描いて置いていかれる時に描いた場所や町名等を付記してもらえば、展示の時にそれなりのコメントが表示でき、より絵への親しみと理解度が増すの

ではないかと感じました。芸大院長が描かれた「出雲崎町の絵」はどこにもないこの町独特の宝物です。これから大事に大切に保存管理し、有効に利用して行くべきものと思っています。



スケッチ画展示に参加して

大門 磯部 友記雄

「こんにちは」今年も出雲崎へやって来ました、とにこにこしながら展示会場に熟年の夫婦が入っ

てこられました。絵や町並みの事について二人から話を聞いていたら、村上市の「人形さま巡り」と「屏風まつり」にも二人で行ってきた事などを知りました。

しかし、出雲崎の「スケッチ画展」は心時めく物があり、今年はどうな絵に出合うことが出来るのかと思いつつ妻入りの街を歩いていくとのこと、そして、展示会場が民家であることや、監視役の人達の説明を聞くことも他の地域とは違った出会いを感じ実に楽しい時間を過ごすことが嬉しいとのことでした。

この街に生まれ育った者にとつては何気ない風景も訪ねて来られた人達にすれば落ちついた雰囲気と、絵からうけとる心温まるものがあるとの事。話に花が咲いて三十分もあつと言う間に過ぎてしまいう程、来町者との交流をする事が実に楽しく意義ある時間でした。年々取り壊される家が増えて実に寂しい感じではありますが、芸

大生と出雲崎町民の交流が一つの財産として後世に残される事を嬉しく思います。

展示期間は少ないですが、会場を提供して下さった町民の方や準備に汗を流された会員の努力に感謝しております。

これからもこの展示が継続され、街並み保存運動が盛り上がり良いなと感じました。



昨年の十月七日には、街並ワークショップを開催しました。今回は町屋に展示された絵を鑑賞し、妻入りの街並について尼瀬の宮下登一さんからガイドをしていただき、街並をウォーキングしました。あいにくの雨の中でしたが、参加いただいた方の感想を紹介します。

小木 安達 敏子

出雲崎に育った私ですが、地域や人と係わることが少なく、見たことはあるけれど、どこの誰か知

らない人が多い出雲崎。

平成6年天領の里がオープンした時、私は時代館で案内の仕事をする様になり、出雲崎の歴史をいっばい勉強させて頂きました。でも机の上の勉強だけで実際の海岸での生活をしていない為地域的なことは全くわかりませんでした。そして今、あの時勉強して覚えた歴史もすっかり忘れてしまっている自分に気づき、もう一度勉強をしたいという気持ちと町内の人と出会う機会を作る為に出雲崎総合大学講座に入学しました。

7回目の講座が10月7日、歴史の道ウォーク・街並ギャラリーの見学でした。当日は風があり、小雨も降るあいにくの天候。雨具をしつかり着て、傘を持ち海岸公民館を出発。外での肉声の説明は、後の方まで声が届かず残念でした。

街並ギャラリーの絵を見て、以前私が企画振興課で仕事をしていた時、確か東京芸大生の絵の番号の整理か何かして、何件かの町家

の玄関や軒先を借りて街並ギャラリーを始めた頃だった様に思いました。その時の絵は、軒先にちよこんと掛けられて、何か小さくなっていた様に思います。あれから回を重ねてきて、目の前の絵は歴史のある妻入りの建築物や間取に融合して、さらにそれぞれの町家の方のおもてなしの心が加わり、どの絵も生き生き輝いて展示されている様に見えました。

絵は描く人の心を色や線などを使って表現するものだと思います。芸大生の人がどんな心の目で見出雲崎をどう表現したかったのかと考えるながら見ていて私一人置いていかれることもありました。

また、妻入りの家の中に入れて頂き、貴重な品物を見せて頂くことができて、私はとてもぜいたくな時間をもらった気持ちでした。

本当は、天領の里まで歩く予定でしたが、途中から雨が強くなった為にコースを変更し、帰ることになり、迎えのバスで海岸公民館

に無事到着し、解散となりました。

最後に、私は「いずもさき」という言葉の響、山と海の自然がある出雲崎が大好きです。

妻入りの街並や街並ギャラリーに関しては、生活をしている町家の皆様のご協力がなければ出来る事ではありません。続けることで歴史が作られます。

どうぞ今後も、この企画が続いていくことを心より願っております。



小木 小田 正勝

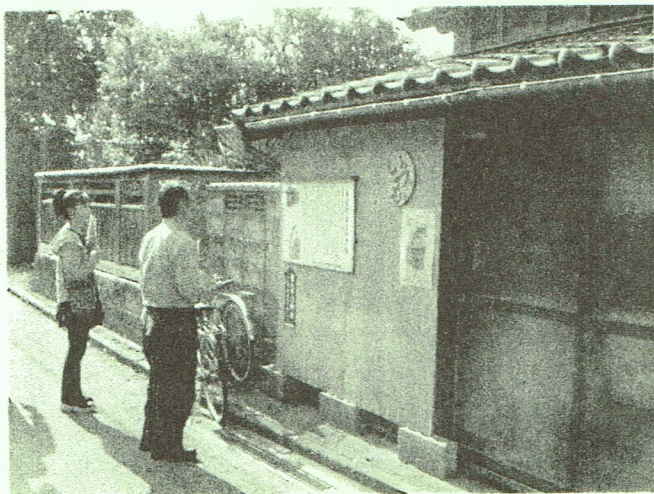
私は、総合大学の受講生で各種の講座のなかでも楽しみで興味のある講座の一つが街並ウォークです。十月七日、午前九時出発の三十分前には、海岸公民館に入り芸大大学院生の日本画を展示された作品を鑑賞させて頂きました。朝から海岸は風も強く吹いて、時折雨の降るあいにくの天気。明日、八日の天領まつりの巡検使行列開催時の天候も気にとめながら、街並景観推進協議会と町教育委員会共催の「妻入り街並ギャラリー」に参加しました。歴史話を聞きながら昔の漁師町の面影を色濃く残している妻入りの街並みを歩きながら同時に開催している町屋を利用したの数多くの展示作品をじっくりと鑑賞させて頂きました。芸大生のスケッチ画のなかでも見応えのあるこの街並を描いた絵を見たり、どの町屋でも現在もなお往時の風情を残しつつ文化生活をそのなかでうまく調和させて生活

しているのに感想を致し、素晴らしいことと思いました。

海や山の自然が豊かで歴史的な風情のある出雲崎町は名譽ある「歴史国道」に選定され尼瀬・井鼻間の三、六キロには棟が道路に面した妻入りの家屋が密集して建ち並び越後出雲崎天領の里としても栄えて、松尾芭蕉が出雲崎で「あら海や佐渡に横たう天の川」と俳句をつくった、街並の中には芭蕉公園、出雲崎代官所跡や、良寛堂など文化的遺産も数多くあり、このような街並は、全国的にも例を見ない貴重なものとされています。またテレビCMでおなじみ鯛のおけさ揚げも好評ですし、稲荷町に十二月に完成した「北國街道妻入り会館」もあります。

しかし近年、高齢化などに伴う人口減で空き家や空き地が増加して街並は、少しずつ変わっていきませんが、妻入りの街並の景観を持ち続け、形として残る妻入りの家並み、自分達の故郷が良くなつて

いく様に、この町に住んで良かったという喜びを共有できる様に、妻入りの街並ウォーク活性化のために毎年開催されている、出雲崎の街並を散策する歴史の道ウォークは好評で町外からの参加もあり好感を持たれており町の宝です。街並ウォークが今後も長く続いて貴重な歴史的遺産を守り残していきたい、更なる発展を願っています。



妻入りの街（二十九）

住吉町

磯野 猛

人物往来

昭和十年六月三十日情熱の歌人として知られた与謝野晶子さんが良寛堂を参詣するため小出町の松原さんらと出雲崎を訪れました。同行の松原さんが住吉町の鳥井儀資さんと親類であったことから、鳥井さんの案内で良寛堂を参詣して、松原さんの発案で鳥井家所蔵の良寛の書幅を鑑賞することになりました。鳥井家の海の見える座敷に通された晶子さんは、佐渡、弥彦、国上山の眺望に感激、さらに良寛の書幅に感動したそうです。良寛の出雲崎ということから佐渡といえは天の川という話題になり、晶子さんが鳥井さんに向かって、「あら海や佐渡によこたふ天の川の句は直江津か糸魚川で作られたんだそうですね」という問いかけに鳥井さんは次のように答えられました。

「あの句は出雲崎で詠んだもの

で発表したのが上越でしたから誤解されております。芭蕉の弟子の各務支考は出雲崎へやって来て、天の川の橋供養の句会をやっており、この町の俳人も享保十六年（一七三一）出雲崎では始めての「俳諧あまの川」という本を出していること、さらに俳諧伝燈塚が建立されたことなどを詳細に説明されました。鳥井さんに対して晶子さんは札状と共に次のような文も書いています。

「芭蕉の間違いを御注意下されまことにおはづかし候。」

鳥井家では次のような歌がのこされています。

良寛が書く戒の条目の

巻を読むなり海の明りに

雲の色さまざまにしてめでたけれ

こしの大野の雨のはれざま

出雲崎良寛堂をきてとひめ

上人の字に似る雨の中

この三首は今も大切に鳥井家に残されており。やわらかな細い線で晶子という歌人の繊細な感じが出ているものです。

情熱の歌人と呼ばれた時代の歌に次のようなものがあります。

やは肌のあつき血潮にふれも見で
さびしからずや道を説く君

こちよくわれよりものの流るるを
恋の日に知り春の日に知る

明治三十七年の日露戦争に弟が召集され戦場に行くときの詩はあまりにも有名です。

「君死にたまふことなかれ」

あゝ弟よ、君を泣く
君死にたまふことなかれ

末に生まれし君なれば
親のなさは勝りしも

親は刃をにぎらせて

人を殺せと教へしや

人を殺して死ねよとて

二十四まで育てしや (以下略)

漆工町・木曾平沢

(長野県旧檜川村)へ先進地視察

木曾平沢は長野県塩尻市にあり、昨年四月に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、昔ながらの町並の保存に力を入れている真つ只中でした。

町並に沿った道を歩いた第一印象は、出雲崎と似ているなといった感じでした。間口が広いので出雲崎より込み合った印象はあまりありませんでしたが、人通りがあまりなく静かな景色が出雲崎を思い出させたのかもしれない。

いざ町の人に会ってみるとびっくり。その方は女性でしたが、私たちに明るく、エネルギーが、この町並のことをいろいろ話してくれました。伝建に指定されたときには、町並に暮らす皆さんが快く承諾してくれ、仲間意識がもともと強かった地域だったそうですが、より一層親密になったと話していました。その後もう一人の女性が話の中に加わってきました。

この方は、木曾平沢の商工会女性部長さんで、お二人とも人を引き付ける魅力のある方だと感じました。

二人の話の中で「町並を全部昔にタイムスリップするのではなく、道路に面した外観を伝統的なものにすればいい。そこに実際に暮らす人のことを考え、家の中は近代的そして住みやすい家に。外は伝統的、昔ながらの家にすればいい」ということが印象に残っています。

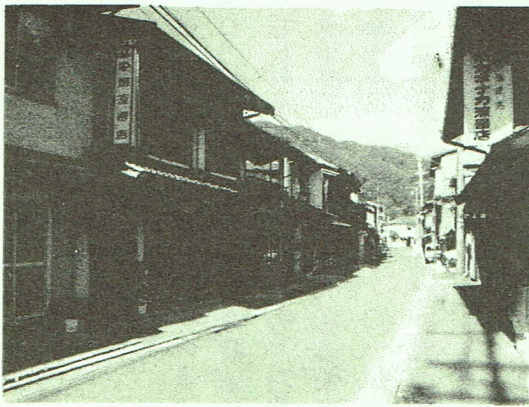


鳴滝町 小林 等

天候に恵まれ視察先塩尻市木曾平沢へ一行は向かった。途中各地の紅葉を感じながら目的地に到着。面積12.5ヘクタールの各町内を見学しながら、日曜日とは言え観光客は車で通過するのみ。

歩いて感じられる事は隣りどうし家がくっついていてるところで、深い短冊状の敷地割が残されている街路に沿って形成された町並みは、それぞれに異なった景観を見せているところなど感じました。短期間で住民合意が得られる事は保存地区とその地区の保存整備に関する保存計画を策定しながら、保存指定を受ける事は、すばらしいと思いました。

私達の街並みは、3.6キロメートルと長い妻入りなので、各町内単位として保存景観に力を入れたら良いのではないかと地元で観光資源、立地条件の良い地場産物等を生かして観光客を誘致したらどう



また地域住民の皆さんからの協力を願わなければいけないと思う。もう少し住民の方々から妻入りについて理解していただき、「妻入りとは」……から発想したらどうか？

各団体機関の協力はもとより、一部の会員、仲間どうしで運営しているような気がしてなりません。せつかく妻入りという街並景観推進協議会がありますので、町民の皆さんから大いに参加していただき協議しようではありませんか？

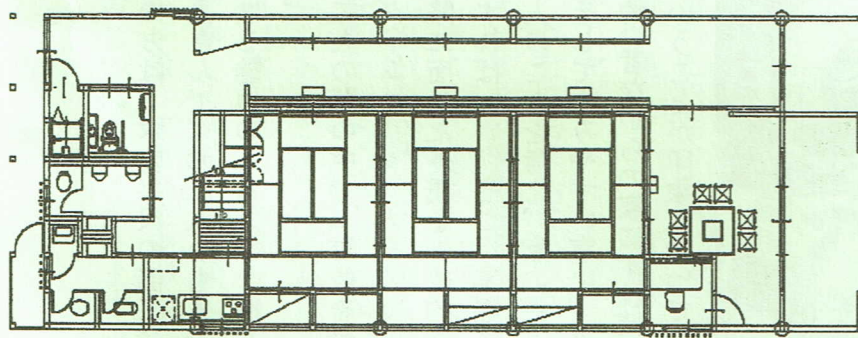
私は、今回の先進地視察に参加させていただき保存について非常に重要感を勉強させていただきま

か？

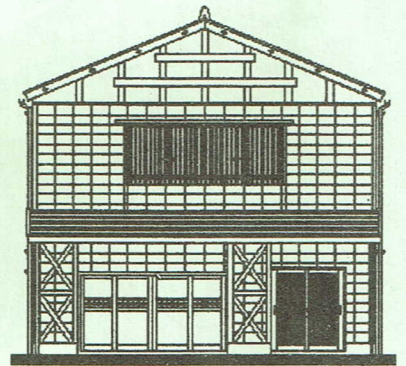
北國街道妻入り会館開館

北國街道妻入り会館は、これまで妻入りの街並を訪れる人々の「妻入りの住宅の内部が見たい」というニーズに応えるため、また妻入り散策の休憩場所として観光客と地元住民の交流の場とすることを目的として建設され、昨年十二月に完成し、今月の十五日から利用開始となります。

会館は、木造二階建ての建物で、外部は、立面図のとおり伝統的な妻入り住宅の外観になっており、出雲崎の妻入りの街並みに調和しています。内部は平面図のように、玄関を入ると囲炉裏が設置されていて、和みの空間、交流の場になっています。土間に沿ってショーウィンドウがあり、ここには街並のスケッチ画などを展示します。また、一階には和室（十畳）が三部屋あり、うち二部屋は吹き抜けになっています。皆様のご利用をお待ちしています。（次回号で詳細をお知らせします。）



平面図



立面図

あとがき
新年あけましておめでとうございませう。

昨年は、良い年でしたでしょうか。

僕は九月末頃突然ヘルニアになってしまいました。一秒前には何事も無かったのに、自分自身びっくりしました。新年早々にあまりいい話ではなく申し訳ありませんが、健康が一番だとつくづく思い知らされました。

さて、お正月ともなればお酒を飲む機会が多いときです。「飲んだら乗るな・乗るなら飲むな」で事故のない町にしましょう。

又、お年寄りの方で餅を喉に詰まらせる事故も毎年新聞にのつてます。お年寄りには小さく飲み込みやすい大きさに餅を切つてやって下さい。今年も幸せな年になりますよう。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

石井町

納谷 稔

